雨竜第1ダム

雨竜川ダム再生事業

雨竜第2ダム

北海道開発局 札幌開発建設部 雨竜川ダム建設事業所

MAP
朱鞠内湖（しゅまりないこ） 周辺マップ

日本最大の人造湖である「朱鞠内湖」には、キャンプサイトがあり、例年多くのキャンパーが訪れています。湖の周辺では釣りやカヌーなど様々なアクティビティを楽しむことができ、大自然を満喫できるスポットとして親しまれています。

湖には、4万年前から姿を変えず、成魚になると時に2mになると言われる日本最大級の淡水魚「イトウ」が生息しており、釣り人の憧れの地として知られています。

※イトウは絶滅危惧種のため保護活動が行われています。
釣りの際は、必ず遊漁規則や注意事項をお守りください。

【ご利用の注意事項】

ゴミは各自でお持ち帰りください。湖は全域で遊泳禁止です。
植物の採取は禁止です。釣りをされる方は遊漁券が必要です。

利用方法・予約・料金などの詳細は、幌加内町観光協会が公開するHPをご確認ください。
https://horokanai-kankou.com/spot/lake-shumarinai/ 幌加内町観光協会 検索

【利用期間】変更となる場合があります

キャンプサイト	5月上旬～10月下旬
ログキャビン	通年（冬季も営業）
釣り	5/1～12/10（トラウトシーズン） 1/10～4/10（ワカサギ釣りシーズン）
カヌー・カヤック	持込期間5/1～12/10※サップは7/1～8/30 エンジン搭載の船・ジェットスキー等は持込不可
観光遊覧船	5月中旬～10月末頃 ※貸しボートも有

雨竜川流域の概要

雨竜という名はアイヌ語の「ウリロペツ（鵜の川）」に由来しています。

雨竜川の源流部はプトカマベツとよばれ、中央天塩山地に源を発し、渓流を集めながら南に流れて朱鞠内湖に至ります。その後山間部を南に流れ、幌加内町の平野部を南下した後、石狩平野に入り、妹背牛町で大河川である石狩川に合流する幹川流路延長177km、流域面積1,722㎢の石狩川の一次支川です。

明治22年に本格的に入植が始まるとともに開発が進み、現在では豊かな農地として利用されています。特に上流域では蕎麦の栽培が盛んであり、その品質は高く、全国の1等格付け蕎麦の9割以上の産地が雨竜川流域となっています。

3つの日本一 幌加内町

幌加内そばの妖精「ほろみん」

1 そばの収穫量&作付面積 日本一

昭和40年代からそばの作付けがはじまり、冷涼な気候、昼夜の寒暖差、日中の気温上昇を穏やかにする朝霧などの自然条件が、そばの栽培に適していたことから栽培面積が増え、昭和55年から現在まで生産量・作付面積ともに日本一を誇っています。

白銀の丘

2 日本最大の人造湖 朱鞠内湖

湖の面積は23.7㎢、周囲は約40kmあり、日本最大の人造湖として知られています。幻の魚イトウが生息する湖としても知られ、湖畔のキャンプ場には例年多くの人が訪れています。湖を含む周辺は朱鞠内道立自然公園に指定されています。

朱鞠内湖

3 一番寒い 日本最寒記録 -41.2℃

昭和53年2月17日、幌加内町の母子里（もしり）地区で、-41.2度を記録しました。残念ながら、気象庁の対象からは外れているため公式の記録ではありませんが、日本記念日協会から正式に認定されているものです。

極寒の幌加内

雨竜ダム建設の歴史

History of Uryu Dam

建設の経緯

北海道における木材の商品化は明治30年代に飛躍的に拡大し、財閥資本が北海道に進出する中、三井物産系列の王子製紙もまた未開発の森林資源の確保を目的に北海道への進出を始めました。

雨竜発電計画は、昭和3（1928）年、王子製紙の系列下の「雨竜電力株式会社」により本格的に始動しました。10年間はダム湖となる箇所の木材の切り出しと基礎調査が進められ、昭和13（1938）年6月に着工、昭和18（1943）年10月に完成しました。当時の施工は人力が主体であり、労働者獲得のため、道内はもとより東京や大阪には専任の募集員を配置して労働者を確保したようです。

第二次世界大戦中であった昭和17（1942）年、雨竜電力株式会社は「日本発送電株式会社」に吸収され、さらに戦後の昭和26（1951）年、日本発送電株式会社の終焉により北海道電力株式会社が事業を引き継ぎ、現在に至っています。

北海道電力株式会社提供

年表

竣工から約80年 雨竜ダムの歴史を辿る

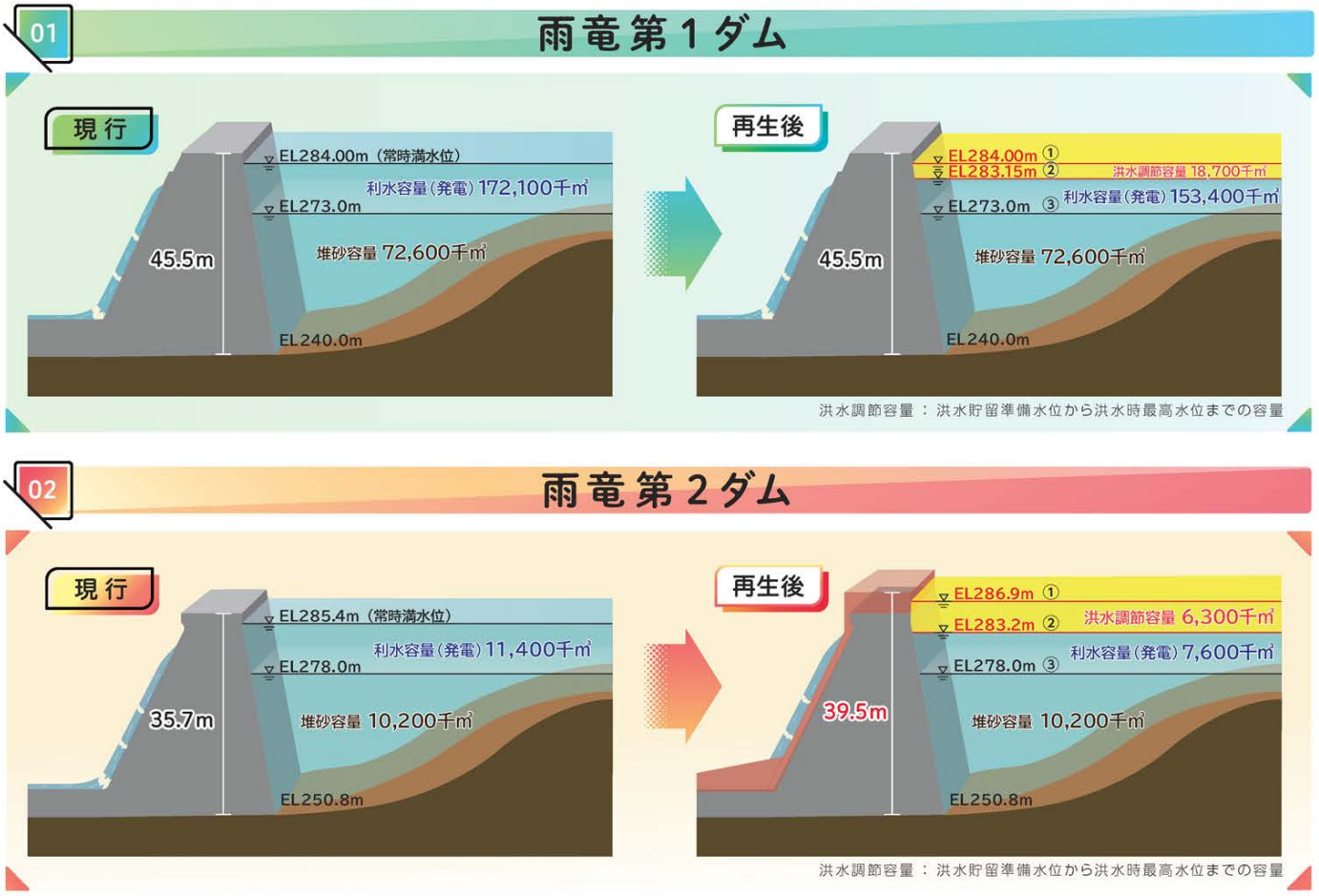
- 大正15年 1926 ダムサイト三股発見（諸説あり）
- 昭和2年 1927 北海道第二期拓殖計画 策定
- 昭和3年 1928 「雨竜電力株式会社」設立 北海道大学雨龍演習林の売却開始
- 昭和7年 1932 幌加内線 開通（深川・朱鞠内）
- 昭和10年 1935 深名線 開通（深川・名寄）
- 昭和11年 1936 ダムサイト地質調査開始
- 昭和13年 1938 ダム建設起工式
- 昭和14年 1939 コンクリート打設
- 昭和17年 1942 雨竜電力株式会社が日本発送電株式会社に吸収
- 昭和18年 1943 雨竜第1ダム、雨竜第2ダム 完成
- 昭和20年 1945 朱鞠内観光協会 創立
- 昭和26年 1951 日本発送電株式会社終焉により北海道電力株式会社が事業を引き継ぐ
- 平成16年 2004 石狩川水系河川整備基本方針 策定
- 平成17年 2005 雨竜発電所が選奨土木遺産に認定される 【土木遺産選奨理由】我国初の地下式発電所であり、その巧みな発電計画により北海道の電力供給の中核を担っている昭和初期を代表する電力土木構造物
- 平成19年 2007 石狩川水系雨竜川河川整備計画 策定
- 平成29年 2017 石狩川水系雨竜川河川整備計画 変更
- 平成30年 2018 実施調査計画 着手
- 令和4年 2022 石狩川水系雨竜川河川整備計画 変更
- 令和5年 2023 建設事業着手

雨竜川ダム再生事業

事業の概要

雨竜川ダム再生事業は、既存の発電専用ダムである雨竜第1ダムと雨竜第2ダムの発電容量のうち、一部を洪水調節容量に振り替えるとともに、雨竜第2ダムの嵩上げと合わせて、新たに約2,500万㎥の洪水調節容量を確保し、治水機能の増強を図るものです。

貯水池容量配分図



【ダム再生後の水位】

①**洪水時最高水位**：洪水時にダムによって一時的に貯留することとした流水の最高水位（サーチャージ水位）
②**洪水貯留準備水位**：洪水期に洪水に備え貯水池の洪水調節容量を大きく確保した水位
③**最低水位**：貯水池の運用計画上の最低の水位

雨竜川流域の洪水被害

雨竜川流域では、これまで昭和30年7月、昭和56年8月、昭和63年8月洪水などで大きな被害が発生しており、平成26年8月の洪水では幌加内市街地上流で計画高水位を超えて、中上流部で溢水氾濫、内水氾濫が発生しました。最近では平成30年7月洪水、令和2年11月の洪水などで浸水被害が頻発しています。

昭和63年8月洪水
（境川と秩父別桜川合流部付近の冠水状況）

平成26年8月洪水
（国道275号冠水状況）

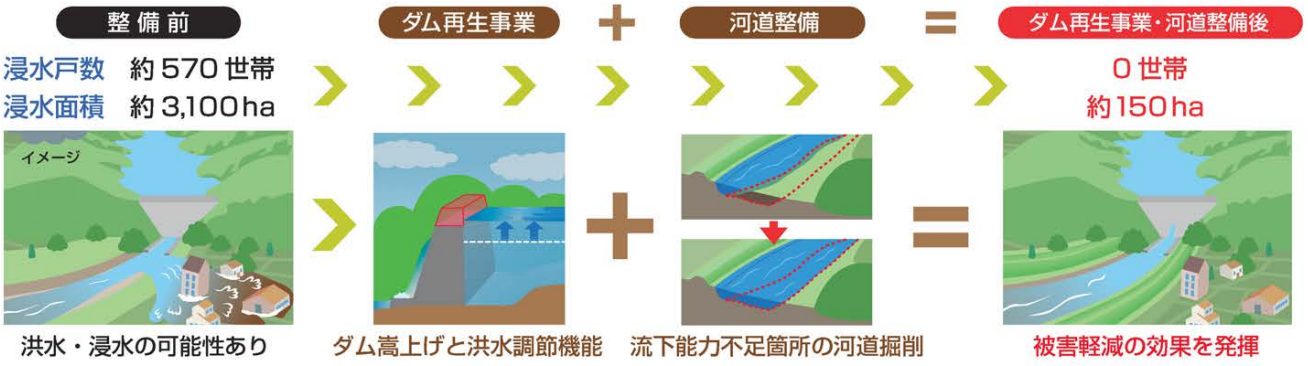
主な洪水被害

洪水年月日	気象要因	床下浸水(戸)	床上浸水(戸)	備考
昭和30年　7月　3日～　4日	低気圧・前線	926	1,179	
昭和50年　8月23日～26日	台風・豪雨	309	37	
昭和56年　8月　3日～　6日	低気圧・前線・台風	438	130	
昭和63年　8月24日～27日	停滞性前線	493	186	下流部戦後最大
平成26年　8月　4日～　6日	低気圧・前線・台風	—	11	中上流部戦後最大

整備の効果

昭和56年8月（下流部）及び平成26年8月（上流部）と同規模の洪水を想定した場合、浸水世帯数約570世帯、浸水面積約3,100haの被害が想定されますが、雨竜川ダム再生事業及び河道の整備を一体的に進めることで、安全な流域を早期に目指します。

整備後の被害軽減効果のイメージ



既設ダムへの新たな目的の追加

既存の発電専用ダムに新たに洪水調節容量を確保することにより、「発電」と「洪水調節」の2つの目的を持った多目的ダムとなります。

発電
Power generation
パワー ジェネレーション

◆電気エネルギーを供給します

水が高いところから低いところへ落ちる力を利用して電気をつくるのが、ダムによる水力発電のしくみです。クリーンなエネルギーとして水力発電は注目されています。

洪水調節
Flood control
フラッド コントロール

◆洪水から暮らしを守ります

ダムに流れ込む洪水を洪水調節容量内に貯めながら、少しずつ下流に流すことによって洪水の被害が大きくならないようにします。

雨竜第1ダム

Uryu No.1 Dam

雨竜第1ダムは、昭和18(1943)年に完成した重力式コンクリートダムです。発電用のダムとして建設されましたが、雨竜川ダム再生事業により発電容量の一部を洪水調節容量に振り替えます。貯水池である朱鞠内湖は、ダム湖としては日本最大の湛水面積を誇ります。

注)現在設計中のため、計画は変更となる場合があります

諸元（現行と再生後の比較）

	現行		再生後
河川名	石狩川水系プトカマベツ川		石狩川水系プトカマベツ川
形式	重力式コンクリートダム		重力式コンクリートダム
目的	発電	⋙	発電・洪水調節
ダム高	45.5m		45.5m
堤頂長	216.0m		216.0m
堤体積	188千㎥		188千㎥
総貯水容量	244,700千㎥		244,700千㎥
有効貯水容量	172,100千㎥		172,100千㎥
利水容量	172,100千㎥（発電）	⋙	153,400千㎥（発電）
洪水調節容量	0㎥	⋙	18,700千㎥
放流設備	鋼製ローラーゲート4門 スルースバルブ1門		鋼製ローラーゲート4門 スルースバルブ1門
利水事業者	北海道電力株式会社		北海道電力株式会社

発電に関して

朱鞠内発電所

雨竜第1ダムの直下流に位置し、下流へのかんがい放流を活用するため発電機能を付加した発電と揚水の両機能を併せ持つ発電所です（認可出力：1,120kW）

雨竜発電所

朱鞠内湖から最大44.20㎥／sを取水し、導水路により発電所に導水、発電したのち天塩川に放流しているダム水路式の発電所です（認可最大出力：51,000kW）

雨竜第2ダム

Uryu No.2 Dam

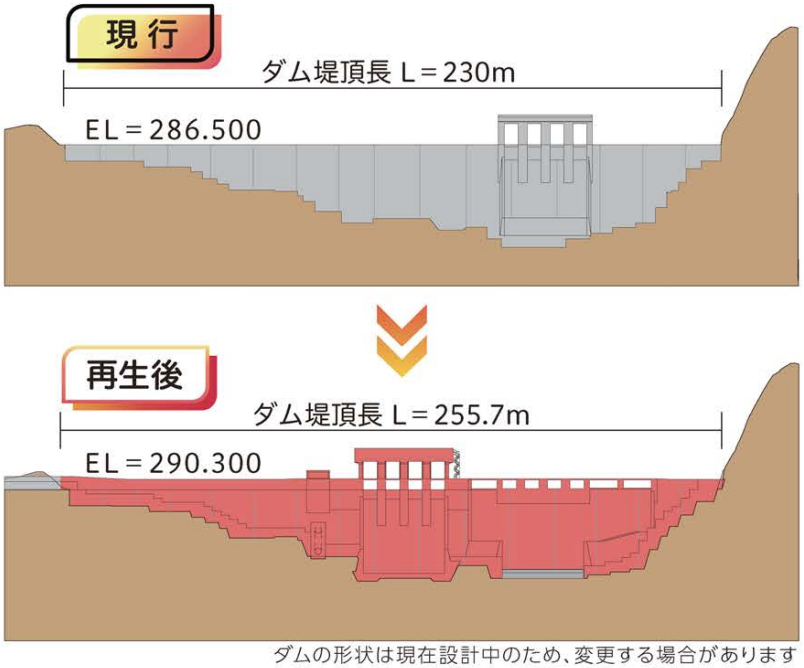
雨竜第2ダムは、昭和18(1943)年に完成した重力式コンクリートダムです。連絡水路により朱鞠内湖への導水を行っていますが雨竜川ダム再生事業により発電容量の一部を洪水調節容量に振り替えます。
また、ダムの嵩上げを行い、洪水調節容量の増大を図ります。

注)現在設計中のため、計画は変更となる場合があります

諸元（現行と再生後の比較）

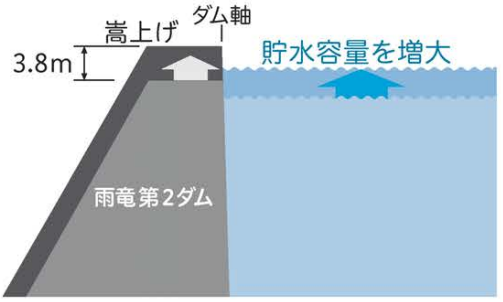
	現行	再生後
河川名	石狩川水系宇津内川	石狩川水系宇津内川
形式	重力式コンクリートダム	重力式コンクリートダム
目的	発電	発電・洪水調節
ダム高	35.7m	39.5m
堤頂長	230.0m	255.7m
堤体積	93千㎥	125千㎥
総貯水容量	21,600千㎥	24,100千㎥
有効貯水容量	11,400千㎥	13,900千㎥
利水容量	11,400千㎥（発電）	7,600千㎥（発電）
洪水調節容量	0㎥	6,300千㎥
放流設備	鋼製ローラーゲート4門 スルースバルブ1門	常用洪水吐 ローラーゲート4門 非常用洪水吐 クレスト自由越流7門 ジェットフローゲート1門
利水事業者	北海道電力株式会社	北海道電力株式会社

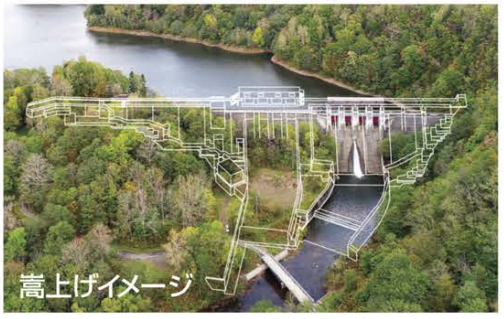
雨竜第2ダム 下流面図



ダムの形状は現在設計中のため、変更する場合があります

嵩上げイメージ





雨竜川ダム再生事業の経緯

昭和18(1943)年	雨竜第1ダム・雨竜第2ダム 完成
平成16(2004)年	石狩川水系河川整備基本方針 策定
平成19(2007)年	石狩川水系雨竜川河川整備計画 策定
平成29(2017)年	石狩川水系雨竜川河川整備計画 変更 雨竜川ダム再生事業新規事業採択【実施計画調査】
平成30(2018)年	実施計画調査 着手(地質調査、環境調査の検討等) 雨竜川ダム調査事業所 開所
令和 2(2020)年	事業再評価(事業継続妥当)
令和 4(2022)年	石狩川水系雨竜川河川整備計画 変更 雨竜川ダム再生事業新規事業採択【建設】
令和 5(2023)年	建設事業 着手 雨竜川ダム建設事業所 開所
令和 6(2024)年	雨竜第1ダム・雨竜第2ダム国土交通省と兼用化 雨竜第2ダム本体工事 着手
令和 7(2025)年	雨竜川ダム建設事業所 移転

堤体調査

環境調査

工事写真

ACCESS

朱鞠内湖へのアクセス

旭川空港から

旭川空港		旭川駅		名寄駅		朱鞠内湖畔
	空港バス 45分		JR 1時間49分		JRバス(深名線) 1時間22分	
	自動車(高速) 41分	旭川鷹栖IC	自動車(高速) 39分	士別剣淵IC	自動車(一般道) 43分	

新千歳空港から

新千歳空港								朱鞠内湖畔
	JR 3時間31分			名寄駅	JRバス(深名線) 1時間22分			
	自動車(一般道) 12分	千歳IC	自動車(高速) 25分	札幌JCT	自動車(高速) 1時間55分	士別剣淵IC	自動車(一般道) 43分	

情報が更新される場合がありますので、あらかじめご了承願います。
道路混雑状況・通るルート・鉄道のダイヤや天候・乗り換えなどの要素により所要時間は変動します。

国土交通省 北海道開発局
札幌開発建設部 雨竜川ダム建設事業所

〒074-0411
北海道雨竜郡幌加内町字幌加内4699番地3　Tel (0165)26-7234
北海道開発局 雨竜川ダム建設事業所 ホームページ URL https://www.hkd.mlit.go.jp/sp/uryuu_damu/index.html

雨竜川ダム　検索

R7年2月更新